

金沢

かわら版

6

尾張町しこせ通りで

加賀藩の参勤交代の行列は、大手門を出てから尾張町を右(東の方)に折れるのがほとんどだった。

橋場町から左に北国街道へ抜け、親類筋の富山藩から山越えをして、江戸屋敷へ至る。

このルートが多かったのは、徳川親藩の福井藩を通過して各地の大名や公家の往来が激しい東海道では、気苦労が絶えなかつたため。

参勤交代

特に、公家の行列なんかには出会いたくない。外様参勤の加賀藩から、何かにつけて金を取るようにするからだ。それも石高に見合ったかたちの扶外な金を。やっぱり、気心の知れた道を通るのがどうしても多くなる。

尾張町の通りは、大手門の前の中町通りを挟んで、かつて西側の土尾張町と東側の下尾張町に分かれていた。そして、行列の通るのが多いのは下尾張町であって、ために上と下の順序が逆に思えるけれど、土尾張町よりも下尾張町の方が格式が高かった。

今でいう税金も多い。何よりも、通りの前に見苦しいもの

や、においのきつい漬物なんかを表で干さないよう、申し渡されているくらいだった。ちよつと見には堅苦しい感じでも、町に住む人々には、こち

よく通った行列 格式高いと自負

らの方が行列がよく通るといふ自負が町をきれいにする。氏神様も下は久保市の劍宮、上は安江八幡宮と別々。尾張町に人が集まりすぎて、その一本裏(北)に新しく出来た新町も、さらに新町より「今に」出来た今町も、上下に分かれている。やつと昭和四十五年の住居表

示の統廃合によって、尾張町の名前で統一。氏神様も久保市の劍宮におさまった。

界隈は、新制尾張町二、二丁目となって見送すと、旧金沢市内の新町名は、なぜかお城に近い方から二丁目、二丁目と名付けられているのは面白い。例外は寺町で、お城より遠い、庶に近い方が二丁目になっている。郷土史家によれば、前田のお殿様のお墓があるからとか。

金沢の町は尾張町に限らず、ちよつとしたことにも歴史と深いかかわりがあったって味わい深い。

(右野 瑠一＝尾張町若手会)



旧町名石

歴史に裏打ちされた町名への愛着を市内の所々で見ることができ